

第3回 大山町水道料金審議会 議事録

日 時 令和5年6月28日(水) 15時～16時15分

場 所 名和公民館 第3会議室

出席者 委員：7名

町：事務局3名

1 開 会

2 会長挨拶

3 議 事

事務局より料金体系の設定について(資料)を説明。

(質疑)

(会 長)

減価償却費は分かりますが、資産減耗費は何ですか？

(事務局)

資産減耗費は、除却費のことです。例えば、新しいポンプを入れたときは、古いポンプの残った未償却部分を除却することになります。その費用になります。

(会 長)

口径によって、基本料金が違いますが、例えば13mmと100mmで100m³を使った場合は、料金はどうなりますか？

(事務局)

基本料金は違いますが、超過料金は同じになります。

(会 長)

減価償却費は別に分かるようにしてあるのですか？

(事務局)

はい。水道会計は資産をすべて積み上げて別に管理しています。

(委 員)

資料に令和6年度から令和8年度の料金回収率が示してありますが、賦課した料金に対してどれくらい回収できるのかを出すものだと思っています。この数字は、どういう意味合いですか？

(事務局)

国の補助金をもらうためには、各年度の料金回収率が100%を超えないといけません。よって、年度ごとに算出してみました。

(委員)

料金回収率が年々悪くなっていますが、努力すれば100%に近づけるものと思っています。この数字は、どのように算出しているのでしょうか？

(事務局)

収益と費用の数字を基に算出するものです。料金回収率を算出する式に、財政収支の見通しの数字を当てはめて出しました。

確かに、努力すれば料金回収率は上がると思います。

(委員)

具体的な算出方法を教えてもらえますか？

(事務局)

料金回収率は、供給単価を給水原価で割って出します。その供給単価は、給水収益を年間総有水量で割って出します。ちなみに令和6年度は139.3円になります。

(委員)

以前の資料で、供給単価、料金回収率をあげてませんでしたか？

(事務局)

第1回の資料では、平成29年度から令和3年度までの数字しかあげていません。

(委員)

分かりました。それにしても、こんなに下がっていくのですか？

(事務局)

費用の中の減価償却費が年々増えますので、そうなります。

(委員)

減価償却費が増えるということは、内部留保資金が増えるということですね。資産維持費を含める必要がありますか？

(事務局)

費用については、変動がありますので余裕幅をみておくという意味合いで、いくらか資産維持費を含めた方がいいと思っています。大山町は、水道施設の老朽化が進んでおり、修繕費もかさむことが予想されます。

(委員)

少し、突っ込んだ話になりますが、第2回の資料の資産残高の見通しについてです。資産残高が年々増えていますが、さらに資産維持費を含めるということは、どういう理由によるものですか？

(事務局)

内部留保資金については、度々説明してきたつもりですが、借入金の償還金に充てるものです。長いもので借入期間は40年になります。始めは利子のほうが多く、途中から元金が多くなります。長期的に見れば、償還金の金額が膨れ上がるとみています。今は、内部留保資金の使用額が数千万円で済んでいます、多いときは数億円になると見込んでいます。

(委員)

財政収支の見通しによると、元金償還金は減っています。資金残高は、増えていくのに資産維持費を含めるとなると、住民が納得できる資料が必要になると思います。

(会長)

住民に説明するにも、審議を任された立場としては、きちんと説明できるようにしなければいけません。料金をあげるにしても、納得できて住民に説明できるものが欲しいです。

具体的に一般家庭と工場では、どれくらい変わってくるのか知りたいです。

(事務局)

今回の資料で、料金比較表を見てもらえると少し分かると思います。

(委員)

例えば、6案をもとに料金を言ってもらおうとわかりやすいと思います。

(事務局)

6案ですと、0～8㎡では、968円になり88円上がります。20㎡では、3,119円になり391円あがります。

一般的には、1人3000ℓ/日と言われていています。1ヶ月にすると1人9㎡になります。

(委員)

水道施設の耐用年数はどれくらいですか？

(事務局)

水道管路はだいたい40年です。

(委員)

今の施設は、それ以上もちます。

(事務局)

そうですね。しかし、逆に耐用年数ほどもたないこともあります。

(会長)

いずれにしても、住民に納得してもらわないといけないので、そういう資料をお願いしたいと思います。料金を上げるにしても、委員として納得しましたと言えるものが欲しいです。

(委員)

内部留保資金の見通しについて、もう少し詳しい説明が必要になると思います。

(事務局)

審議会の始めから、少しずつ説明してきたつもりですが、長期的にみないと内部留保資金額が減らないので分かりにくいと思います。今後10年くらいは、工事費用がかかります。そうすると、減価償却費が増え内部留保資金が増え続けます。ただ、内部留保資金は経常収支の赤字を補填することができません。

今後の元金償還のためにも、今は内部留保資金を貯めるときであると理解していただきたいと思います。

(委員)

工事費用がかかるのであれば、事業計画もあわせて資料提供してもらえたらと思います。

(会長)

次回、資料を見ながら検討しましょう。

(質疑終了)

4 その他

次回の日程 7/28 (金) 午前9時からの予定

5 閉会